



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	上野山 晃弘		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 5		
講義室	1208	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F [探求力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP5-J [創造的挑戦力・達成力] コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイディアを革新的かつ創造的に結合し、リスクをとりながら、結果にむすびつけることができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L [協同力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M [省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） E1 学識と専門技能（20%） F1 探究と論拠（10%） I1 理解・分析と読解（5%） J2 創造的思考（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） L1 チームワーク（15%） M1 総合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	特にありません。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、個人研究を卒業論文として執筆し、完成させるまでの総合的なプロセスを指導します。 ■キーワード 危機管理、倫理的課題、先行研究、研究テーマ、卒業論文 ※授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方		

	法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。						
授業の趣旨	■副題 「危機管理上の倫理的諸課題」について考える ■授業の目的 「危機管理上の倫理的諸課題」について考察し、議論を通じて自らの考察を深め、その成果を最終的に卒業論文として執筆することを目的とします。本ゼミナールでは、とくに危機管理政策を支える理念や価値観に関する分析・考察に重点を置き、環境問題や生命医療倫理の諸課題、宗教文化間の争いなど、対立する価値観相互の間でいかにして合意を形成し、問題解決を行うことができるのか、その具体的事例を取り上げて研究を行います。 ■授業のポイント 「ゼミナールⅢ」以降は、卒業論文の執筆を進め、最終的に完成させることを目的とします。各自の研究テーマと論文構成案に基づき、卒業論文の執筆を進めます。そして、随時進捗状況を発表し、他の学生との議論を通じて自らの考察をさらに深め、原稿の推敲を重ねます。最終的に卒業論文を完成させ、その成果（要約）を発表します。						
総合到達目標	■「危機管理上の倫理的諸課題」について分析・考察できる。 ・研究を進めるにあたって先行研究の調査・分析方法を修得する（第1回～第15回）。 ・各自の関心に沿った研究テーマを設定し、「危機管理上の倫理的諸課題」について分析・考察する姿勢を修得する（第1回～第15回）。 ・調査や考察の結果について論文形式で論述し、最終的に卒業論文を完成する（第1回～第15回）。						
成績評価方法	■プレゼンテーション 2回（30%）：適用ルーブリック B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1 （評価の観点） レジュメの内容（卒業論文の内容について論理的に論述されているか）、プレゼンテーションの技法（聴き手に分かりやすく発表できているか）を中心に評価します。 （フィードバックの方法） 授業内に全体あるいは個別にフィードバックします。 ■授業参加度 15回（20%）：適用ルーブリック B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1 （評価の観点） グループ・ディスカッションに積極的に参加しているか、授業内課題（リアクションペーパー）において自らの考えを適切に論述しているかなど、演習授業への積極的な参加度を評価します。 （フィードバックの方法） 授業内に全体あるいは個別にフィードバックします。 ■卒業論文（50%）：適用ルーブリック B1、C1、E1、J2、I1、K1、K2、L1、M1 （評価の観点） 卒業論文の構成（論理的に論述できているか）、研究内容（先行研究に関する客観的な分析と、独創的な考察結果が明確に示されているか）、分量（規定の文字数を満たしているか）、文章表現（誤字脱字等がないか）などを中心に評価します。 （フィードバックの方法） 授業内に全体あるいは個別にフィードバックします。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点	演習形式の授業ですので、発表者は自身の担当回に責任をもって発表を行い、発表者以外の学生も議論に積極的に参加してください（無断欠席は厳禁です）。						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の目的、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明を通して、授業の全体的な概要を理解できるようになる（各自の発表担当回についても決定する）（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） シラバスの内容および授業内の説明内容について再度確認し、次回以降の授業に備える。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（1） ②授業概要 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の目的、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明を通して、授業の全体的な概要を理解できるようになる（各自の発表担当回についても決定する）（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） シラバスの内容および授業内の説明内容について再度確認し、次回以降の授業に備える。	2	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（1） ②授業概要
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の目的、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明を通して、授業の全体的な概要を理解できるようになる（各自の発表担当回についても決定する）（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） シラバスの内容および授業内の説明内容について再度確認し、次回以降の授業に備える。						
2	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（1） ②授業概要						

	卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
3	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（2） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
4	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（3） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
5	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（4） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
6	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（5） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
7	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（6） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分）

	授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
8	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（7） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
9	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（8） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
10	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（9） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
11	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（10） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
12	①授業テーマ 卒業論文の中間報告と議論（11） ②授業概要 卒業論文の草稿（進捗状況）について中間報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 担当者は発表原稿（レジュメ）の作成・発表準備等を行う。担当者以外の受講者は、各自卒業論文の執筆を進める。 ④復習（120分） 授業での発表や議論、教員による指導等をふまえ、各自の研究テーマに関する調査・考察を進める。
13	①授業テーマ 卒業論文完成報告（1） ②授業概要 卒業論文概要報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。

	③予習（120分） 卒業論文概要報告のための準備を行う。
	④復習（120分） 報告と議論、教員による指導等をふまえ、各自の考察をさらに深める。
	14 ①授業テーマ 卒業論文完成報告（2） ②授業概要 卒業論文概要報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文概要報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告と議論、教員による指導等をふまえ、各自の考察をさらに深める。
	15 ①授業テーマ 卒業論文完成報告（3） ②授業概要 卒業論文概要報告を行う。報告内容について受講者全員で議論できるようになる（B1、C1、E1、F1、H1、I1、J2、K1、K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 卒業論文概要報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 報告と議論、教員による指導等をふまえ、各自の考察をさらに深める。
関連科目	演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2（RMGT1215・1RMGT216）」・「危機管理基礎演習Ⅰ・Ⅱ（RMGT2601・RMGT2602）」・「ゼミナールⅠ～Ⅲ（RMGT4601・RMGT4602・RMGT4603）」と関連します。
教科書	なし
参考書・参考URL	■論文の書き方を学修するための参考書 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会、2018年 ■研究テーマを考えるための参考書 加藤尚武（編）『環境と倫理 自然と人間の共生を求めて』有斐閣、2005年 玉井真理子ほか（編）『はじめて出会う生命倫理』有斐閣、2011年 児玉克哉ほか『はじめて出会う平和学 未来はここからはじまる』有斐閣、2004年 松元雅和『平和主義とは何か 政治哲学で考える戦争と平和』中央公論新社、2013年 神島裕子『正義とは何か 現代政治哲学の6つの視点』中央公論新社、2018年 児玉聡『実践・倫理学 現代の問題を考えるために』勁草書房、2020年 小松光彦ほか（編）『倫理学案内 理論と課題』慶應義塾大学出版会、2006年 石原孝二ほか（編）『科学技術倫理学の展開』玉川大学出版部、2009年 石井洋二郎ほか『大人になるためのリベラルアーツ 思考演習12題』東京大学出版会、2016年 石井洋二郎ほか『大人になるためのリベラルアーツ 思考演習12題 続』東京大学出版会、2019年 吉永明弘ほか『環境倫理学』昭和堂、2020年 神崎宣次ほか『倫理学』昭和堂、2023年 松田毅ほか『応用哲学』昭和堂、2023年 伊原木大祐ほか『宗教学』昭和堂、2023年 ※ご自身の関心のあるテーマについて、図書館所蔵の文献をさらに確認してください。 ■参考URL 日本大学図書館三軒茶屋キャンパス分館OPAC https://rmsslib.nihon-u.ac.jp/opac/opac_search/ 日本大学危機管理学部危機管理学研究所『危機管理学研究』 https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/research/bulletin/ ※危機管理の諸課題に関する先行研究として、また論文の書き方の学修のために必ず参照して下さい。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%：パブリックセキュリティ25%：グローバルセキュリティ25%：情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 法学10%：危機管理学90%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.